

花木園の造成と運営による里山観光の方向

林 角 郎

1. 道ばた園芸についての補足

本論に入る前に前号花葉36号中で筆者が述べた道ばた園芸について若干補足します。文中に掲載した写真や記事の内容は当面身近に得た館山市内の例のみで述べましたが、今春に神奈川県大磯町におけるオープンガーデンショーのパンフレットを拝見し、同町における今年のショーの内容を知ることができました。

そのパンフレットによると行事の内容は同市内有志の方々のオープンガーデンと、各住宅や商店等の建物前の小花壇をそれぞれストリートガーデン、ショッピングガーデンとして町内各地区の写真などが紹介されていました。この後者は筆者が花葉の前号で述べた道ばた園芸と完全に一致するもので、それが館山市内の場合よりはるかに点数が多く、また地域も広くほぼ連続する状態でなされているようでした。このイベントについては単なる町内の景観改善の目的だけのみでなく積極的な観光事業を強く意識しているものと考えられます。この点から筆者の述べる道ばた園芸は最近のインバウンド増加の傾向とも関連して、わが国の市街地の景観を示す一つの方角になるものと予想されます。

2. 山里観光について

当安房地域では最近比較的有效に活用されていない山林地や農耕地を利用して観光事業等に役立てようという考えが出て、山里観光と呼ばれ話題になっています。これは基本的に最近の国内の農林業生産の先行き不安感から新しい生産の方角をさぐるという漠然とした改善策の他に、地域全体として観光対応のため新しい方向を見出そうという一つの動きとも感じられます。

また、最近の傾向として目的の土地に花の咲く植物を一定規模植栽し、開花時に多くの人々の観覧に供する例が見られます。その主な傾向としては芝桜などの宿根草やネモフィラ、コキア等の一年草を単色か、いくつかの花色の品種を合わせてかなり大面積に栽培している例が知られています。この場合多くは事業主体が公共体か、大きな企業などによる例が多く、公共的な場合はそのまま開花時に開放し、企業体の場合は園内の広大な景観として利用している例が多いようです。

これに対して前述のように山林の多い地域などでは農耕に利用されていない農地や山林地を利用し、主として花を利用する植物を栽培して開花時に公開し、観光として利用しようという形式が山里観光とされています。この具体的な動きについて安房地区ではまだ少ないものの他県ではすでに観光農業として運営している例も存在するようです。その1、2の例を次項に示します。

3. 農山林地の観光・安房地区内の例

この事例は安房地区ではまだ少なく、一つだけ鴨川市の清澄山山頂の寺院の境内でスカシユリ系交配種の最近の品種の球根を植え、開花時に公開している例があるのみです。また花木に関しては1～2件、その方角を考えている例はあるものの具体的な動きはまだ見られません。しかし他県に目を移すと近くにもその例が見られるためその若干にふれておきます。

4. 他県の花木を利用した観光用栽培の例

埼玉県下における例ですが、埼玉県秩父郡皆野町にある「ムクゲ自然公園」では総面積30ヘクタール（明治神宮外苑の森と同面積）の広大な山林地にムクゲ50品種10万本を主とし、他に若干の花木類と、一部花木の樹下に秩父特産の福寿草「秩父紅」を栽培しています。また園内には地域の人々の文化活動のために文化ホール、美術館、アトリエ等も設けられています。そして同園の入園料は中学生以上1人500円の整備協力金を頂いています。

この園の創設とその後の運営は農業関係者ではなく、戦後韓国から来られて建設業を日本で修得し、そのまま開業された方が地域の観光と文化振興を考えて土地を取得し、園内の整備、苗木の植付けを行ったものです。このためその実施にあたってはかなり長い期間をかけて検討し、昭和63年から土地購入を始め、植付けや園内の整備を終えて平成14年に開園しています。その後創始者はなくなられて現在は企業の一環として次女の方が運営管理にあたっておられます。

この園が特にムクゲを主体に植栽したことについて、送付された園紹介の新聞記事ではムクゲが先代の出身国の国花であることが述べられていましたが、次女の方のお話ではムクゲの開花期間が6月から9月までと長く、また品種数が多いことが大きな理由で選んだとのこと。そして送られた園内の写真から沿道近くに植えられた株はかなり低く仕立てられ、後方の高く仕立てた木とともに立体的に構成されている様子がわかります。また品種の組み合わせについては1ヶ所に多くの品種を集める植栽とせず、1品種または2～3の品種を個々の区画ごとに植えて、ほ場ごとに品種の特長を示すよう配慮されている様子がうかがえます。

なおこの園のある秩父地方は以前から観光地として有名であり、ブドウなどの観果果樹園や他の花木園もかなり存在しており、このムクゲ園もそれらとともに観光用としての機能を十分発揮しているものと思われます。

5. ここで述べる花木園の基本的方向

わが国ではこれまでも多くの人々が開花時に集まりその開花状況を眺める花木園が存在しております。関東地方におけるその例としてはボタンやツツジ、サツキ等の品種を集めたり、古木のある園、また巨大に生長したフジ等が見られます。これらの各園には開花時に一般の人々も訪れますが、どちらかといえば趣味家が主に集まり専門の立場で観覧する場合が多かったように思えます。

本稿で述べる花木園も一部に趣味家も含めますが、目的としてはさらに幅広く一般の人々にそれぞれの植栽花木の良さを示し、さらなる普及をはかることを基本的なねらいとしています。それに加えてわが国の山野の景観をよりはなやかにし、さらに、青少年達の健全な遊びや、スポーツの場の提供も考えるものです。

このため植栽方式も種類や品種ごとに一定の面積にまとめてボリューム感を示すような考えとしています。

また花木ではそれぞれの種類の開花期間が比較的短く、少ない種類だけでは花のない期間が多くなるため、近い時期に咲く数種を組合わせて観覧する期間を極力長くするように考慮しています。なおこの開花の時期についてはそれぞれの地域で観光シーズンといわれる時期と整合させることも望ましいと考えます。

6. シーズンの期間中対応できる花木園

反面前項のように周年花が見られるよう1年間に咲くすべての種類を集めると観覧する人は常に全体の規模の数分の1の花しか見られないことになります。このため筆者としてはその中間を取り、各地域で観光シーズンと考えられる時期を想定し、その時期に咲く種類を主体として栽培し、開花期を重点に開園する方式を考えました。また反対に比較的シーズンオフとされる時期にも注目されるよう、その頃に開花する種類も選ぶ考慮もあってよいと思われます。

さらに花木の植栽方法についてはこれまでのような種類や品種主体の展示とせず、最近の傾向のように品種はしぼり、花の色彩や模様で統一し、マスとして咲く様子を強く示せるような植栽方法にすべきと考えています。

7. 植栽する種類の1例

種類の選定を例示するため筆者の在住する千葉県のアノ地区を想定した花木の種類、主な品種と利用方法の概要を表に示します、この表の中から前項中で述べた重点となる時期を選ぶとすると、まず主力となるのが花の畑が満開となる冬と、海の魅力が強調される夏の花となりますが、新しく開拓すべき時期として秋を想定してもよいと思われます。

表 アノ地域で考えられる樹種とその特性の概要

季区分	種 類	品種・他	開花期	樹 高	主な花色	樹 形	その他特長
春	ウメ	各種	3月	高	紅、桃、白	木立	香り強
	レンギョウ	チョウセン 日本	4月	中、低	黄	ブッシュ	多花性の品種
	コブシ	コブシ モクレン	4月	高 低	白	木立	同上
	ツツジ類	各種	5～6月	低	各色	ブッシュ	品種検討

初夏	アジサイ類	各種	6～7月	中	紫、青、紅	ブッシュ	品種検討
	カイコウズ	エリスリナ・クリスタガリー	6～7月	高	紅	木立	継続開花のもの利用
	スモークツリー	各種	7月	中、高	白～紅	ブッシュ 木立	けむりになりやすい品種
夏	キョウチクトウ	白・ピンク	7～10月	中、高	桃、白	大きいブッシュ	花色 桃、白が好ましい
	ムクゲ	各品種	7～9月	低～高	各色	ブッシュ 木立	台を作り高低調節
	サルスベリ	各種 含1才系	8～9月	低～高	紅、桃、白	ブッシュ 木立	同上
秋	ハギ類		9～10月	低～中	白	ブッシュ	開花期間長
	モクセイ	キンモクセイ	10月	中	黄	ブッシュ	香り強
	カエデ	イロハ・イタヤ	11月	高	紅、黄(葉)	木立	発色良い品種
冬	サザンカ	各種	11～12月	中	各色	ブッシュ	開花期間長いもの
	カンツバキ	タチカン ハイカン	12～2月	低	紅	ブッシュ	両種適宜利用
	ツバキ	各種	2～3月	低～高	各色	ブッシュ 木立	なるべく花の大きい品種

注1. 樹高は自然のもののみでなく、人為的に作った場合も含む

2. 樹形も上記と同様

8. 植栽の規模について

これまでの花木園では1品種あたりは少ない株数とし、品種を多く集める例が多かったようですが、この計画では集団美を強めるため品種数は少なく、面積は種類ごとにまとめた規模が望ましいと考えます。1案として前項の例で考えるなら、まず植栽する花木の品目数は夏から一部秋のものとさらに冬に咲く種類を加えて10種以内とし、それぞれを10アールほど植栽するとします。これに園内をつなぐ小道や各種構築物、駐車場等を入れれば園地の面積は1.5～2ヘクタール程度になると思います。土地所有の状況から一概にいえませんが、一応花木園を開設するならこの程度の規模が必要だと思います。

9. 栽培する樹木の剪定と仕立て方

栽培する樹木すべては園内の栽培状況に合わせて毎年適切に剪定し、植えた場所にふさわしいように樹形を仕立て、極力その形を維持すべきです。この樹形については基本的には地表から一定の高さで主幹を止め

て側枝を出させ鑑賞上都合のよい樹形とします。一般に広葉樹の多くは分枝の発生力が強いので地表からの位置を違えて自由に剪定でき、さらに二次、三次の枝の整枝により樹高や樹形を調節することが可能です。これにはほぼ同時期に咲く2、3種の花木や、同一種の中の花色等の組み合わせにより花木のみでも立体的となり、花色等で平面的な模様を描く新しい花木花壇ができることとなります。例として品種の多いムクゲやサルスベリで述べると、先端に花が集中しやすいサルスベリを中央部に、剪定位置が自由にしやすいムクゲを周辺部に配し、さらに花色を組み合わせれば横から見てもすべての樹の花色が認識できる立体型花壇となります。

またもしこの花木花壇を高所から見おろせる場所があるなら、植える花木の花色を組み合わせることで花木の模様花壇とすることも可能となります。こうして考えればこの花木園造成には工夫次第でさまざまな新しいアイディアの生れる可能性を持つことにもなります。

10. 入園料の徴収について

比較的規模が小さい場合はあえて入園料は取らずに開放して自由に見せるという手段もありますが、原則として入園料はその額のいかんを問わず来園者からいただくべきです。ただその場合は完全自動化でない限り職員を張り付ける必要があり、それに伴う設備、経費も必要となります。このような計画は園開設の計画時に考慮すべきです。

また付帯する食堂、喫茶等の飲食店や土産店等も園自体で行なうか、他業者依頼かのいずれかで早めに手配すべきです。また営業を伴う場合は法人組織の手配も必要となるため、その面の協議も早めに考えるべきです。

11. サポーターグループの育成

最後に援助グループについてふれますと、まず園開設後に種々な方法で一般の人々に呼びかけてグループ員を募集します。この会は自主的な運営とし、定期又は不定期に園に集って園職員等の講演会や説明会を行い、樹木の整形、剪定等の各種作業を行ってもらい、そのお礼として増殖した苗木等の配布など対応をはかります。

これらのグループは直接の作業援助のほかには園のP

Rなどで運営上かなり役立つ存在になるものと思われます。

またこのグループの中から積極的な園の活動などについて改善策が出るようなら、それを採用して新しい運営方法を考えだせば、まさにオーナーとユーザーの一体化した経営となります。

12. 苗圃の造成について

一度導入した樹種は登録品種を除き、種々の目的で苗の増殖を行うため挿木等によって増殖する必要が生じるため、その作業を行う苗圃が必要となります。特に前項の友の会ができれば苗配布のために必要であり、このための土地の確保・整備等も開園時に考慮すべきです。

以上、山林地を利用した花木園の造成について筆者なりの考えを述べましたが、要は観光対応という新しい分野を考え、同時に山林地の有効活用という面からしてもご検討いただきたく思います。

なおこの花木園造成などについて当地の樹木医である齋藤陽子さんと常々協議してきており、本稿の表もご検討いただきましたので、ご紹介し、御礼申し上げます。